

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):経済学部・3年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:メルボルン大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

メルボルンの中心街のすぐそばに立地する総合大学。オーストラリア各地からの学生に加え、中国やシンガポール、マレーシアなどアジア各国から来た留学生も多く学んでいる。

留学した動機

語学力を向上させる絶好の機会だと思ったから。また、外国の教育機関で学ぶことで、日本の大学教育を客観的に見つめ直すことができる良い機会だと思ったから。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学/研究指導の委託
- ③留学期間: 2016年2月～2016年6月 学部/修士/博士[3]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2016]年 学部/修士/博士[]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 学部/修士/博士[]年の[7~8]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[82]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[未定]単位
留学後の取得(予定)単位[未定]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年[4]月入学 西暦[2017]年[3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
4年の夏学期に留学すれば、3年次に卒業への見通しを立て、さらに帰国後は卒業論文に取り組めると考えたから。

留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
留学先大学の指示に従って履修登録等を事前に進めた。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
学生ビザ(575)。オンラインで手続きを進めることができる。なお、申請の際には5万円の費用が発生するので注意。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
歯医者に行った。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学から紹介された保険のみ。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
3年のAセメスター終了後に留学したため、試験等に関して特別な手続きはしていない。
- ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

IELTS8.0

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

アジア人が多く住んでいることもあり、日本を含むアジア各国の食材や調味料は街で容易に手に入るため、特に日本から持参する必要のあるものはないと感じた。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

- Introductory Econometrics
- Intermediate Microeconomics
- Economics of Financial Markets

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

レクチャー＋チュートリアルというスタイル。私が履修していた授業のチュートリアルではその週の講義内容に即した問題演習が行われたが、授業によってチュートリアルの内容に差がある。講義をオンラインで視聴できたことは非常に便利だった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3科目履修し、各科目とも1週間の授業時間は3時間(講義2時間＋演習1時間)。授業時間以外では復習や課題に取り組んだが、どれくらいの学習時間を費やしたかは記憶していない。

④学習・研究面でのアドバイス

同じ授業を取っている友人がいると課題の相談ができる。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

語学面での苦勞は特になかった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学から歩いて数分の学生アパートの1人部屋に滞在した。家賃は約12万円/月。2016年1月にできたばかりのアパートであったため綺麗で設備にも特に不具合はなく快適に過ごすことができた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

渡豪した2月はまだ暑かったが、帰国する直前の6月にはすっかり寒くなっていた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

メルボルンの治安は良い。また、現地の医療機関を一度受診したが、保険に入っていたのでスムーズに受診できた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃12万円＋生活費10万円＝約22万円

・留学に要した費用総額とその内訳

約130万円(生活費22万円/月×5か月＋航空券12万円＋初期費用8万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから毎月7万円を受給していた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

勉強の合間に友人と親交を深めた。また、イースター休暇には国内を旅行した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特にサポートを利用することはなかったが、サポート体制は充実していた印象を受けた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は朝 7 時から夜 1 時まで利用できた。学内では Wi-Fi が利用可。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学していなかったら出会えなかった友人たちと親交を深めたり、留学先大学の先生に色々な話を伺えたりしたことは留学することで得られたベネフィットであったが、卒業論文の提出が認められなくなったり、就職活動の開始時期の変更に対応できなかつたりといったコストがそうしたベネフィットを上回ったように感じられる。

②留学後の予定

就職活動

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

最近では東京大学でも「グローバル化」を掲げて留学を推奨する傾向にあるものの、少なくとも私の所感では現行制度は依然として留学しにくいものになっているため、そうした形式的な部分で不利益を出来るだけ被らないように留学を上手に計画することをお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年7月19日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (●)5.民間企業(業界:商社・金融) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

メルボルン大学はオーストラリアのトップ大学の1つで、世界的にも評価の高い大学である。

留学した動機

大学生のうちに海外に長期間滞在してみたいと思ったのが第一の動機である。自分の専門外ではあるが非常に興味があった国際政治についてしっかり学ぶいい機会だと思い、この交換留学に申し込んだ。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S1	学期まで履修	
②留学中の学籍:	留学					
③留学期間等:	年	月~	年	月	年時に出発	
④留学後の授業履修:	2016年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始	
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	3月頃に		
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				34	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位					単位
	留学後の取得(予定)単位					単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3月卒業/修了		
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間			
⑨留学時期を決めた理由:						
交換留学は3年次以降でないといけないと行くことしかできないため。4年の夏からだとならだと就活に影響が出ると判断した。(編集者注:2年次からも可能だが、留年する必要がある。)[2016年7月現在]						

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

Certificate of Enrolment (CoE)など応募書類が来るのが遅いことがしばしばなので、慌てない方が精神衛生上よい。またメールの返事も遅いことがあるので、そういうものかと気長に待つといいと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私は健康診断があることを知らず直前に慌てて受ける羽目になった。書類をweb上で提出したらすぐに提携病院に連絡を入れ健康診断を受けることを忘れないようにしてほしい。私の場合健康診断を含めすべての申請が終わったあと4日ほどでビザが下りた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

オーストラリアで歯を痛めると治すのに非常に多額の費用(私の友人の場合診療1回AU\$500)かかると知っていたので、行く前に歯の検診は受けておいた。持病はないのでそれ以外は特に準備せず予防接種も受けなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大から紹介していただいた保険(交換留学の場合加入必須)に加入した

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

経済学部留学願を出した。他には特に手続きは行っていない。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

単語帳を復習したり海外のニュースを見たりした。海外のニュースを見るのが一番いい練習になった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地で大体のものは買えるのであまり大量のものを持っていく必要はない。特に変圧器は全く使わなかった。携帯も現地でプリペイドを買える(日本で申し込めるやつもあるが値段がぼったくりだと思う)。日本から持っていきべきだと思ったのは歯ブラシである。オーストラリアの歯ブラシは巨大で日本人には合わない。私は事前にこの情報を得ていたので歯ブラシはたくさん持っていった。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Academic English			Asian Century		●
International Relations		●	Chinese Politics and Society		●
Political Economy		●	Comparative Politics		●
International Politics					
Language and Power in Asian Societies					

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>予習と課題が非常に大変だった。各科目毎週2～3時間のレクチャーと1時間程度のチュートリアルで構成されるのだが、毎週のチュートリアルに向け100ページ以上の文献を読まなければならなかった。読むスピードは徐々に改善されていったがそれでも最後まで苦勞した。チュートリアルではレクチャーと参考文献を下に議論をするのだが、最初は意見を言うのにとっても苦勞した。途中からは意見も言えるようになり楽しむことができた。課題に関してはmid termに各科目2000word程度のessayを書いたが、これも大変だった。きちんと参考文献で自分の意見を裏付けする必要がある、それぞれのessayにつき10個ほどの文献を読んだ。またplagiarismについて非常に厳しく、引用のスタイル等形式についてもいろいろ学んだ。メルボルン大学の指導体制は非常に充実しており学生へのサポート体制がしっかりしていたので、困ったことがあればいつでも相談できた。教授も教えることに非常に熱心で授業もとても楽しかった。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>1学期あたり最大4科目履修できる。私は1学期目2学期目ともに4科目(合計8科目)履修した。授業は1コマ60～120分で、チュートリアルは各科目辺り最低1コマ60分ある。授業以外にも予習や課題をやる時間が必要で、1日3時間以上はかかった。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>困ったことがあったらチューターに連絡を取り相談すると思う。またessayを書くときは図書館員が文法やスタイルについて指導してくれるので、積極的に活用すると良い。もし同じ教科を取っている友達がいれば、essayの読み比べをやると思う。そうすることで自分のessayを客観的に見るができるようになる。</p>
<p>⑤語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>最初は周りが何を言っているのかさっぱりわからなかったが、2ヶ月終わったくらいから徐々に英語力の向上を実感することができるようになった。やはり趣味があるとそれのつながりで友達ができやすく会話も続くので、趣味を大切にするといいと思う。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学附属の寮(International House)に住んでいた。申し込みはwebを通じて行う。寮費は食事込みで1学期\$10,000以上とお世辞にも安いとは言えないが、大学外に住むより友達が作りやすく友達の輪も広がりやすいのは事実だと思う。寮の中ではイベントがたくさんあるので、積極的に関わっていくといいと思う。私は寮の中で自転車サークルの設立に関わりそれを通じてたくさんの人と知り合うことができた。ちなみに寮への申請は5月始めに締め切られ、入寮許可の知らせが来るのは5月末から6月はじめになる。1ヶ月前まで住む場所が決まらないことになりやや焦ると思うが、そこは気長に知らせを待つとよい。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>日本のように四季がある。冬は日本の晩秋のような天気です東京ほど寒くはないが、夏は非常に高温乾燥(40℃以上かつ湿度10%以下)となり厳しい。服装は日本と同じような感じを想像すると思う。交通機関に関してはトラムが充実している。ただし一回\$2と高価なため、私は途中で自転車を買ってどこへ行くにもそれを使っていた。道が広く自転車レーンも充実しているのだから自転車はオススメである。食事は寮で3食食べていた。外食すると最低でも1回\$15くらい飛んでいく。物価は非常に高い。お金は日本でデビットカードを作っていた。比較的レートの良いカードを持っていたため国際送金とどちらが安いかは正直いってよく分からないが、手間はカードの方がかからない。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>治安は昼は良く夜はあまり良くない。私も道端にとめていた自転車を一回盗まれた。夜は1人で出歩かない方がいいと思う。医療機関に関しては日本語の使える病院が1カ所cityにある。風邪をこじらせ動けなくなった際には保険会社を通じてそこに連絡し診てもらった。Mid termや試験前は課題等で夜遅くまで起きていることが多かったため、どうしても疲れが抜けなかった。精神的につらいときは現地の友達に相談していた。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>

寮費:週\$600程度(食事込み、非常に高い)、交際費週\$30(主に外食)

・留学に要した費用総額とその内訳

総額350万円弱。寮費が一学期100万円と高かった。残りは移動費や旅行、交際費である。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学海外派遣奨学事業2015年度短期・超短期海外留学等奨学金

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

趣味として自転車を使ったツーリングをやっていた。寮の中で自転車クラブの創設に関わり週末や休日はツーリングを企画した。長期休暇中も自転車旅行でお金を浮かしていた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

メルボルン大学のサポート体制は非常に充実していた。語学面では英語が母国語ではない学生向けに英語でのエッセーの書き方や発表の仕方を教えてくれる授業があった。また図書館員がチューターとなってessayの添削をしてくれるサービスもあった。生活面では寮に住んでいたため寮の友達やスタッフに助けももらった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は複数ありどれも広く快適だった。スポーツ施設に関してもキャンパス内にプール・ジム・陸上競技場があり非常に充実している。PC環境もwifiが整備されており快適である。唯一と言っていい欠点は食べ物で、大学内のフードコートで食べると10ドル以上かかり高かった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外で働くことに抵抗がなくなった。もっと海外で勉強したいという思いが強くなり、海外大学院進学も視野に入れるようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特に就活はしなかった。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:)
()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:)
()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

学習面、生活面の両方で成果を上げることができた。学習面では自分の意見をより論理的に表現することができるようになった。チュートリアルやessayでは常に論理的であることが求められたため、参考文献やレクチャーの内容を使い自分の意見を組み立てるよう心がけた。その結果自分の意見により説得力を持たせることができるようになり、essayで高評価を得ることができた。また国際政治を学ぶことで経済学とは違った目線で国際的な問題を見ることができるようになった。生活面ではより自律した生活を送ることができるようになった。

②留学後の予定

貿易や外交の方面での就職を考えている。将来的には海外大学院進学も視野に入れている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外の大学だと東大では会えないような人にたくさん会うことができ視野が広がると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 9 月 16 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:報道) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

人文学系、理系、医学系、芸術系など様々な分野の授業が取れる。国際色豊かで、留学生が多い。日本人は少なめだが、日本語クラブなどを通じ日本に興味がある人と知り合うことができる。

留学した動機

報道の仕事を目指しており、メディア・コミュニケーションに関する授業が取れると聞いたため。一学期ごとにとる科目数が少なく、その分自分が興味を持った分野の勉強に力を注げると思ったため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015 年	学部4	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015 年		7 月~	2016 年	8 月
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2015 年	学部4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016 年	学部4	年生の	8 月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				16 単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				16 単位
	留学後の取得(予定)単位				16 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012 年		4 月入学	2017 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			5 年	ヶ月間	
⑨留学時期を決めた理由:					
行こうと思ったときに行くのが最善と考えたため。					
留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					

インターネット上で申し込めたのでスムーズだった。早めに行うとよい。			
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)			
学生ビザをオーストラリア大使館に向けてインターネットで申し込んだ。早めに行うとよい。			
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)			
出発前の健康診断は必須。常備薬は特に持参せず。予防接種も受けていない。			
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)			
大学からも、オーストラリア政府からも加入を課されている。			
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)			
帰国後半年で卒業するため、論文指導の先生を探し、事前に相談を行った。			
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)			
授業などを通じ、勉強していったが、現地で伸びるスピードのほうが早い。			
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど			
基本的なものは購入できるので、あまり心配しなくてよいと思う。			
学習・研究について			
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。			
授業科目名	単位認定 の申請	授業科目名	単位認定 の申請
computing	●	media writing	●
digital media research	●	advertising	●
creative writing	●		
freeplay music	●		
marketing	●		
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)			

報道・マーケティング関係の授業を中心にとった。予習の読み物の量は多い。プログラミングの授業が特にハードだったが面白かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一学期あたり4科目とる。週あたりは20時間程度。試験前はもう少し多くなる。

④学習・研究面でのアドバイス

予習復習をしっかりとし、教授や生徒と仲良くなると良いと思う。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

現地の報道でやっていけるレベルになりたいと一生懸命吸収した。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ルームシェア。家賃は高い。インターネットなどで見つけた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は良い。交通機関も便利。お金はカードや銀行口座など。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良い。病院は一度かかったが保険がきいたのでスムーズだった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月15万程度。家賃が主。

・留学に要した費用総額とその内訳

200万程度。家賃と航空賃が主。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給していた。東大のホームページから見つけた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

インターンなどをかなり行った。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

あまりない。ただ人はみんな親切。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

歴史もあり充実している。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

自分のつきたい仕事が明確に定まった。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

既存のルート以外にも道はあると思うので心配しないほうがいいと思う。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:)
()4.非営利団体(団体名又は分野:) (○)5.民間企業(企業名又は業界: 報道)
()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私の場合、自分が将来やりたい仕事が明確に分かるようになり、そのための経験を積めたことが大きかった。

②留学後の予定

東大に通い卒業した後、報道の仕事に就く予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

色々なことに悩んで固まってしまうよりも、まず一歩を踏み出すとよいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 12月 2日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 (○)5.民間企業(業界:未定) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

オーストラリアのトップ大学の一つ。留学生が多く、国際色豊かな大学である。学生数も多い。心理学に強いことで有名。

留学した動機

語学力・専門性を向上させるためと、国際色豊かなキャンパスでの学びを通して視野を広げるため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年		2月~	2016年	11月
	学部3		年時に出発		
④留学後の授業履修:	2016年	学部5	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の		3月頃に 行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		68	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		未定	単位	
	留学後の取得(予定)単位		未定	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年		4月入学	2018年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			5年	ヶ月間	

⑨留学時期を決めた理由:

部活の幹部だったので、幹部としての仕事を終えてから留学したかったから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先大学の指示に従って入学手続き、履修登録等を進めた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

メルボルン大学から指定されたビザにオンラインで申し込んだ。許可は自動返信かと思うほどすぐにおりた。申請の際にはお金がかかるので注意。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯医者に行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から紹介された保険と、オーストラリア政府から加入が義務付けられている保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

文学部に留学願を出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

IELTS7.0。言語交換をしていた。海外ドラマを頻繁に見た。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

オーストラリアの周波数に対応したsimフリーのスマホを持って行くと便利。現地の携帯電話番号は様々な申請の際に必要なになるので、取得することを強く勧める。日本の食材や調味料は少し割高ではあるが容易に手に入るのを持って行く必要はない。日本の百円均一のお店もcityにある。服は安くて良いものが少ないので、可能な限り日本から持って行った方が良いと思う。寒暖差が激しいので、夏でも羽織るものは必須。サングラスも日本で買って持って行くことを勧める(現地では高いので)。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Developmental Psychology		●	Academic English 2		●
Music Psychology		●			
Music and Health		●			
Personality and Social Psychology		●			
Trends in Personality & Social Psychology		●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>ほぼ全ての科目でレクチャーとチュートリアルが組み合わされている。ほとんどのレクチャーは録音される。私が履修した心理の授業では、チュートリアルで実験と実験レポートの書き方についての指導が行われ、ディスカッションやプレゼン等の機会は少なかった。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>一学期あたり最大4科目履修できるが、私は一学期二学期ともに3科目履修した。一科目あたりの負担が大きいため、何回か授業に参加して様子を見てから履修科目数を決めることを勧める。授業時間は科目によって異なり、レクチャーとチュートリアルはどちらも1コマ60~120分ほど。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>LMSに、授業や課題に関する質問を投稿できる掲示板があるので、何か分からないことがあればそこに投稿するとチューターやほかの生徒が回答してくれる。授業のシラバス(Handbook)はネット上で自由に閲覧することができるので、参考にすると良いと思う。</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p>
<p>Academic Englishという、英語での論文の書き方や発表の仕方を指導してくれる授業があり、その授業で学んだことは課題のエッセイを書く際にとても役に立った。教授の話す英語は易しいが、生徒の話す英語を聞き取るのに苦労した。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学から歩いて5分ほどのところにある学生アパートの4人部屋(シェアルーム)に滞在した。家賃は約12万円/月。大学が紹介している住居の中で家賃が一番安かった。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>日差しがとても強いのでサングラスと日焼け止めは必須だった。1日の寒暖差が激しく、夏でも寒いことがある。CBD内ではトラムに無料で乗ることができるので、CBD内及びその付近に住むのなら交通費はほぼかからない。物価はおしなべて高く、外食すると一回で10ドル以上かかる。オーストラリアではほとんどのお店でクレジットカードが使える。留学前に、海外で現金引き出しができる日本の口座を開設した。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>市内中心部の治安はおおむね良いと感じた。病院には一度も行かなかったが気候の変化が激しいので体調管理には気を遣った方が良いと思う。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>家賃12万円+生活費5万円(交際費含む)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>家賃:12万×10ヵ月 生活費:5万円×10ヵ月 航空券代:18万円(往復) 旅行代:30万円</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

<p>JASSOから毎月7万円を受給していた。</p>
<p>⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)</p>
<p>日本語クラブ(日本に興味があるメルボルン大学の学生が集まって会話をするサークル)に参加した。休暇中はオーストラリア国内及びニュージーランドで旅行をした。</p>
<p>派遣先大学の環境について</p>
<p>①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)</p>
<p>Stop1という何でも相談所のような場所があり、学生生活に関する相談があればそこに行くのと大抵の問題は解決する。</p>
<p>②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)</p>
<p>WiFi環境は良い。図書館は沢山あるがいつも混んでいる印象。印刷代は自己負担。大学構内のフードコートは値段が高い。</p>
<p>留学と就職活動について</p>
<p>①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど</p>
<p> </p>
<p>②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響</p>
<p> </p>
<p>③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)</p>
<p>私は特に就活はしなかったが、キャリアフォーラムに参加している人もいた。留学中は日本の企業の説明会に行くことが出来ず、得られる情報がネット上のものに限られてしまうので、留学前に就活に関する情報をできるだけ集めておくことを勧める。</p>
<p>④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください</p>
<p>()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()</p>
<p>留学を振り返って</p>
<p>①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感</p>
<p>メルボルン大学では日本人はマイノリティであり、マイノリティとして様々な国籍の人と交流することを通して、日本及び日本人としての自分を客観的に見ることが出来るようになったと感じている。また、日本とは違い、慣れない環境でほぼ一人で頑張らなくては行けないのでストレス耐性がつき、主体性も高まったように思う。自分の英語力の課題を明確化する良い機会でもあった。</p>
<p>②留学後の予定</p>

就職活動

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学の目的を明確にすることと、語学学習をきちんとしておくことが大事だと思う。実際に留学に行ってみないと分からないことも多いので、少しでも行きたいと思うのなら、早めに留学準備を始めて、思い切って留学することをお勧めする。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。